

## 第 44 回日本消化器がん検診学会近畿地方会のご案内

第 44 回日本消化器がん検診学会近畿地方会を下記のごとく開催いたします。

多数の演題応募とご参加をお願いいたします。

**テーマ：消化器がん検診の“いま”そして“これから”**

**会 期：2015 年（平成 27 年）8 月 29 日（土）**

**会 場：大阪国際会議場**

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5 丁目 3-51

参加費：2000 円

### プログラム（予定）

#### 【第 1 会場】

午前

□ワークショップ：『消化器がん検診の精度向上をめざして』

□一般演題

□ランチョンセミナー「大腸 CT コロノグラフィー」

午後

□教育講演 1：「胃がんリスクを考えるー内視鏡的胃炎診断を中心にー」

司会：小林正夫（京都第二赤十字病院健診部）

演者：渡辺 俊雄（大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学）

□教育講演 2：「胃 X 線造影検査によるヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の診断と検診への応用」

司会：山崎秀男（大阪がん循環器予防センター）

演者：伊東 高広（奈良県立医科大学 放射線科）

□シンポジウム：『消化器がん検診の“いま”そして“これから”』

司会：渡邊能行（京都府立医科大学大学院地域保健医療免疫学）

西田 博（パナソニック健康保険組合 産業保健センター）

#### 【第 2 会場】

午後

□教育講演 3：「超音波で癌を視る」

司会：平井都始子（奈良県立医科大学中央内視鏡部・超音波部）

演者：田中 幸子（大阪がん循環器病予防センター）

□超音波検査のステップアップに必要なコツとワザ

『肝』 森 雅美（P L 病院 中央検査部）

『胆・膵』 川端 聡（住友病院 超音波検査部）

□ワークショップ

『腹部超音波がん検診の“いま”そして“これから” / 症例から学ぶカテゴリー分類』

## 【演題募集】

○シンポジウム：『消化器がん検診の“いま”そして“これから”』（公募、一部指定）

本邦における胃がん検診は、胃がん死亡率抑制効果が証明された X 線検診が住民検診などの対策型胃がん検診として広く行われているが、内視鏡検診も普及しつつある。しかし、内視鏡専門医の人数に限りがあり、近年は ABC 検診などのリスク検診を導入している施設も多い。また大腸がん検診では、対策型検診として行われている便潜血検査、任意型検診として、注腸検査、全大腸内視鏡検査に加え、大腸 CT コログラフィを導入している施設も増加している。

本シンポジウムでは胃がん検診、大腸がん検診の現状をふまえて今後のあり方について考えるシンポジウムとしたい。

○ワークショップ：『消化器がん検診の精度向上をめざして』（公募、一部指定）

消化器がん検診は広く普及し、その有効性は言うまでもないが、さらなる、がん死亡率の減少のためには、がん検診の精度向上と受診率向上が不可欠である。本ワークショップでは、精度向上、受診率向上にむけて各施設で実施している取り組みや工夫について報告していただき、胃がん検診、大腸がん検診の今後のあり方について考えるワークショップとしたい。

○一般演題

発表形式：シンポジウム・ワークショップ・一般演題ともすべて PC を用いた口演とします。

応募方法：メールへのファイル添付でお申し込みください。

送付先：下記の学会事務局メールアドレスへ必ず、氏名、所属、住所、電話番号、FAX 番号を明示の上、ご送付ください。

E-Mail：[nishimura-shige@sumitomo-hp.or.jp](mailto:nishimura-shige@sumitomo-hp.or.jp)

抄録作成要領：Microsoft Office Word(Windows 版)で作成してください。

フォント：MS 明朝、文字サイズ：10.5 ポイント、文字数：演題名、所属名、演者名、本文を含んで全体で 800 字以内としてください。

抄録書式

演題名：

所属名：

○筆頭演者名、共同演者名 1、共同演者名 2、・・・

(1 行空白)

本文

近畿地方会演題登録期間：2015 年（平成 27 年）5 月 18 日（月）～6 月 30 日（火）

お問い合わせ先・事務局

住友病院 外科 西村重彦 〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-20

E-mail：[nishimura-shige@sumitomo-hp.or.jp](mailto:nishimura-shige@sumitomo-hp.or.jp) TEL：06-6443-1261 FAX：06-6444-3975